



JEG ニュースレター 159号

www.jegschweiz.com

2017年 2月11日発行

小さな証

両親から優れた素質を受け継ぎ、音楽家を目指す青年が救われるまで、。 P2

心は30代

引退しても宣教の情熱は止まず、モスLEM難民に福音を伝えるフリーダ元宣教師の心は30代。 P3

新しい年を迎えて

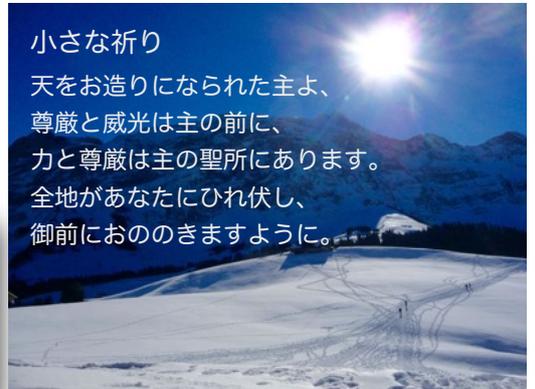
心機一転の好機、新年を迎えて、日本から、欧州から、そして地球の裏から素敵なご挨拶が届きました。 P4-P7

FAT Retreat

Slimと集いを契機に若者によって立ち上げられたFAT。その第一回リトリートがスイスで開かれました。 P7

小さな祈り

天をお造りになられた主よ、
尊厳と威光は主の前に、
力と尊厳は主の聖所にあります。
全地があなたにひれ伏し、
御前におののきますように。



私は、キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の栄冠を得るために、目標を目指して一心に走っているのです。

ピリピ 3：14 スイス JEG 年間聖句

一位を獲るためだけに走るんじゃない。金や銀や銅じゃなくて良い。それに僕は共鳴した。コレが人生。彼女の姿を見てヒット曲のために歌うんじゃない。一人の人の心に感動を与えられたら、それは大ヒットだと思った。(名曲"勝利者"を作った小坂忠さんのことば) ロス・オリンピックで、スイス人マラソン走者アンデルセンさんがゴールに向かう姿がダブリます。新しい年、私たちキリスト者は、神の愛から離れることなく、目標に向かって、お互いを支え励まし合いながら、一心に進んでいきたいものです。



ちいさな証

Die Bibel, Jesus Christus und ich

Shimon Imamura

JAPANISCHE EVANGELISCHE GEMEINDE SCHWEIZ



Ich heisse Simon Imamura. Ich möchte mich heute vor Gott taufen lassen und möchte euch kurz in vier Punkten über mein Leben Zeugnis geben, wie ich die Bibel kennen gelernt habe, was für mich die Bibel, Jesus Christus und die Gemeinde bedeuten.

Ich kenne die Bibel schon seit meiner Kindheit von meinen Eltern, Grosseltern, Verwandten und von

einigen Bekannten her. Ich glaube, die meisten Menschen, die mir immer nahe gestanden sind, waren tief gläubige Christen. Deswegen war es für mich auch immer selbstverständlich, dass wir über die Bibel geredet haben. Ich glaube kaum, dass wir einen Tag hatten, an dem wir nicht über Gott geredet haben.

Wir erzählten Bibelgeschichten, wenn es uns gut ging und auch wenn es uns schlecht ging. Die Bibel bedeutet für mich viel. Durch die Bibel konnte ich erfahren, wer der lebendige Gott ist und wie er damals mit den Menschen umgegangen ist. Durch die Bibel kann ich auch mit dem lebendigen Gott kommunizieren. Durch die Bibel kann ich Gott sehr nahe spüren. Die Bibel ist für mich aber auch ein Buch, das mir viel Weisheit lehrt. Wenn es mir ganz schlecht ging, haben mich die Bibelgeschichten immer wieder ermutigt und neue Hoffnung gegeben.

Jesus Christus ist für mich mein engster Freund, dem ich mich anvertrauen kann. Er wird meine Gebete erhören, und auf ihn kann ich mich verlassen.

Bei Ihm fühle ich mich am meisten wohl und bei ihm bin ich in absoluter Sicherheit.

Obwohl ich in meinem Leben vieles falsch mache und ungutes tue, hat Jesus mich nie aufgegeben und hat mir immer wieder vergeben, wenn ich um Vergebung bat.

Schon als ich ganz klein war, ging ich in die Japanische Gemeinde. Damals predigte Pastor Tanabe. Da wir mit ihm regelmässig Hauskreis gehalten haben und er uns oftmals besucht hat, kannte ich ihn sehr gut und er war für mich wie mein Grossvater. Ein paar Jahre später predigte dann Pastor Gerster. Mit dessen Sohn hatte ich dann viel Kontakt und er war wie mein Bruder. Wir haben zusammen die Bibel gelesen und ich habe oft bei ihm übernachtet. Nachdem Pastor Gerster aufgehört hatte, zu predigen, kam Pastor Meyer in die JEG. Die Inhalte von seinen Predigten fand ich oft schwierig, aber ich habe dann auch mit Ihm einen Vorbereitungskurs für die Taufe gemacht und konnte da den Inhalt viel besser verstehen. Nach diesem Kurs habe ich mit ihm regelmässig über skype Bibelstudium gemacht und er hat mich unterstützt wie mein Vater. Ohne diesen Vorbereitungskurs und die Bibeln

私にとっての聖書とイエス・キリスト

今村詩門

スイス日本語福音キリスト教会会員

私は今村詩門と言います。私は今日、神様の御前で洗礼を授かります。そして私がどの様に聖書を知る様になったか、聖書とはイエス・キリストとはそして教会とは私にとってどういう意味を持つのかについて4つの点から短く証ししたいと思います。

私は両親から、祖父母から、親戚から、そして知人を通して子供の頃から聖書の事は知っていました。私にとっても近い存在の人たちはほとんどキリスト教の深い信仰心を持っていると思います。ですから私達が聖書について話し合ったりすることは私にとって全く普通の事で、当たり前な事でした。私達が神様について全然語らない日が今までほとんどなかったのではと思います。物事がうまくいっている時にも、またうまくいっていない時にも私達は常に聖書のお話をしました。

聖書は私にとって色々な意味があります。聖書によって私は神様が誰であるか、そして当時、神様はどの様に人々と関わって来たかを知る事ができました。また聖書によって私は神様をととても近くに感じることができます。聖書はまた私にとって知恵を授けてくれる書物です。物事が全くうまくいなくて、とても大変だった時、聖書のお話は私に勇気を与えそして希望を与えてくれました。



イエス・キリストとは私にとって信頼できるとも近い親友です。彼は私の祈りを聴いて下さり、彼に私は委ねることができます。彼の元では私はとても心地良く、彼の元では私は絶対的な安心感があります。私は自分の人生で沢山の間違いをしたとしても、イエス様は決して私をあきらめないし、赦しを乞うならばいつも私を赦して下さいます。

物心ついた時からすでに私はスイス日本語福音教会に行っていました。当時は田辺牧師が説教をしていました。彼のもとで私達は定期的に家庭集会を行っていましたし、彼は良く私達を訪ねて下さったので、私は彼の事をとても良く知っていて私の祖父の様な存在でした。数年後ゲルスター牧師が説教をするようになりました。私は彼の息子さんからとても仲良くして頂き、彼は私のお兄さんの様な存在でした。私達は良く一緒に聖書を読み、彼の所によく泊めて頂きました。ゲルスター牧師が辞められて、マイヤー牧師がその代わりにスイス日本語福音教会に来られ説教する様になりました。彼の説教内容はかなり難しいと思いましたが、私はマイヤー先生と洗礼の為の準備コースを持ちました。それによってその内容がずっとわかる様になっていきました。この準備コースの後、彼とは定期的にスカイプを通して聖書の学びの時を持ち、彼は父の様に私を支えて下さいました。この準備コースと聖書の学びの時間がなければ、この様に洗礼を受ける決心をする事は難しかったと思います。スイス日本語福音キリスト教会とは私にとって家族であり、共に祈り、共に信頼し、神様に共につながっている存在です。



1、12月25日、クリスマスのこの日、主はひとりの若者を救うという素晴らしいプレゼントをご用意くださいました。今村泰典・葉子姉の長男、今村詩門君が洗礼を受けられました。感謝！クリスマスチャンホームに育ちながらも、二つの文化のはざままで悩み多き青春時代を過ごした彼が救われるまでの証を、ニュースレターの「小さな証」に掲載しました。

2、スイスJEG主催の第33回ヨーロッパ・キリスト者の集いの準備作業が本格的に稼働した2016年の幕開けから、恵み多き2016年の教会の歩みを振り返ってビデオ“[スイスJEGの2016年を振り返って](#) JEG Schweiz Rückblick 2016”が出来ました。(スイス JEGニュースレター愛読者限定公開)この記録にはキリスト者の集いダイジェスト版ほか、洗礼式まで収録されています。
<https://www.youtube.com/watch?v=8c-f48uull4>

3、12月27日から30日にかけて、FATの第1回リトリートがスイス・チューリッヒ市のメソジスト教会で開催されました。FAT (flexible, available, teachable) は、昨年のSLIMおよびヨーロッパ・キリスト者の集いを契機に、お互いを支え励まし信仰を育むために若者たちによって立ち上げられたものです。このリトリートには、ヨーロッパ4カ国から25名の参加者がおり、ともに主を賛美し、聖書を学び、信仰と交わりと絆を深めました。このFATについて、スイスJEGの津田和明兄が、7ページにその意義と活動について書かれていますので、どうかお読みになってください。



4、2017年の新年礼拝は、今年の年間聖句（1P表題）であるピリピ3章14節から「信仰の栄冠」をテーマに、キリスト者が目指すべき目標について、マイヤー牧師から力づよいメッセージをいただきました。1月22日は、「主からの手紙シリーズ」に戻り、「サルデス宛の手紙」死の床から起きなさいからを 黙示録3:1-6から解き明かして頂きました。パワーポイントが入ったメッセージビデオはスイスJEG-HPの説教サイトをご覧ください。(一般公開) [礼拝メッセージ \(Audio/Video\) - スイス日本語福音キリスト教会のホームページによろそ!](#)



神の家族に迎えて、今村詩門兄洗礼式

5、1月22日13時半より、第24回教会総会が開催されました。スイス在留邦人とその家族の魂の救いと神様の栄光を現すため、スイス人元宣教師を中心に創立されたスイスJEGは生まれて24年を迎えました。感謝！昨年からの聖書に基づく長老制の導入によって役員信任投票が行われ、開票の結果、マイヤー・マルチン牧師に加え、原憲二兄、松林幸二郎兄、フォンプランタ・コニー兄、今村泰典兄の留任が可決され、2017年度の役員として、神と教会の前に重い責務を担うことになりました。この責務を遂行するには、会員各位の真摯な祈りが欠かせないとして、祈りの支援要請が原会長よりありました。

6、ストラスブール聖書のお話を聴く会”レポート”

「聖書を知りたい！」一留学生の乾いた魂の叫びから9年前に始まった仏ストラスブール「聖書のお話を聴く会」。

3月11日(土)13時からマイヤー牧師を講師として迎える会で、発足から33回目を迎えます。現在は、発足時からご奉仕いただいている内村伸之ミラノ賛美教会牧師とマイヤー牧師を交互にお迎えし、南ドイツ福音ネットワークの働きの一環として活動を続けています。

聖書を知らない学生の為のこの「み言葉の種蒔き」が引き続きできます様にどうぞお祈り下されば幸いです。

今村泰典



7、日本と日本人を愛して、スイス・アライアンス・ミッションの宣教師として、佐渡島ほか日本各地で長年お働きになったフリーダ・ローラー師が、願いが叶って故郷近くの老人ホームに入居されました。とてもお元気で、ドイツ語のコーランを読み、難民のための働きをされています。最近もフリーダ師は、一人のモスLEM男性を教会に誘い、男性は自分の求めていた平安と神を見出したとのことです。写真は、今村一家がフリーダ師を訪問したときのもので、旧友でもある神の家族の来訪をひどく喜ばれていました。



8、[第34回ヨーロッパ・キリスト者の集い](#)が、8月3日(木)から6日(日)まで、ミュンヘン日本語キリスト教会主催でライプツィヒ市において開催されます。この度、その第2信が発行されました。申し込みは3月1日から15日までですので、欧州の日本語教会を通じてお早めにお申し込みください。なお、第2信ならびに予定プログラムはキリスト者の集いのオフィシャルHP：www.europetsudoi.netでもご覧いただけます。

9、オーニング宣教師、クッツ・プリスキラ宣教師、ラシェンコ・ペラ宣教師、ローゼンクランツNL、フーサー香織・シモン宣教師からの Rundbrief、工藤篤子メルマガ、井野葉由美メルマガ号、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語キリスト教会月報、ケルン・ボン日本語キリスト教会月報、ルーミア川井勝太郎宣教師の週報、ブリュッセル・ミサ便り、パリ・プロテスタント日本語キリスト教会バルター・ジュ、イザール通信、夜越山からの便り、ミッション”宣教の声”が届いています。お読みになりたい方は、松林までご連絡ください。

日出づる国から

新しい年を迎えて

Photo: Max Oehninger

膨らむ夢

東京都杉並区は西荻チャペルの
高橋稔・みどりご夫妻



私たちがフランスから帰国して、この一月であっという間に二年が過ぎました。こちら

では「欧州日本人宣教会」のメンバーの皆さまに加えていただき、ヨーロッパ各地から送られてくる祈りの課題を覚えて、共に祈禱会や報告会で交わりを持ち、祈り合っています。

私と家内は、40年前に私たちが開拓に当たらせていただいた東京杉並区の西荻窪にある小さな教会「西荻チャペル」での奉仕に当たらせていただいています。一軒の民家を借りて始めた英会話教室から開拓し、後に教会として発足した後、その民家を買取りました。

私たちはここで13年間の奉仕に当たった後、2011年、パリ教会に赴かせていただくまで長野県松本市



の教会で牧会をしてお

りました。その間、西荻チャペルは無牧状態の時が長く続いていたようで、現在も20人ほどの礼拝出席者ですが、30人で満席になる小さな会堂です。昨年のクリスマス・コンサートには入り切らない50人ほどが集まりました。

礼拝堂もいっぱいになれば礼拝を二回に分けて・・・と夢を膨らませています。今年の夏には、ヨーロッパキリスト者の集いにも参加したいと思っていますので、皆さまとも再会の時を楽しみにしています。

主が来られる日

東京都は東久留米市の
シクリスト・ウルス・美智子ご夫妻



去年はヨーロッパキリスト者の集いに参加させていただいて、みなさんとの交

わりの時が与えられて感謝でした。

御国を待ち望むということ、主を待ち望むということがイエス様の弟子として歩む中でいかに力を与えてくれるものかということ学び、今もよく思い出します。

イスラエルという国が実際に存在するこの時代に生かされていることに感謝します。イスラエルの今の状況を見ていると「主の来られるのも近いな」と思います。「小さい子どもが二人いて日々のことで頭がいっぱい、イエス様に集中する時間なんてほとんどない!!」と思うときもあるのですが、「主が祈らせてくださる時があるな」と最近思います。

毎日毎日を「今日、主が来られるかもしれない」という思いで過ごしたいです。そうすれば、隣にいる人に何を語るべきか、隣にいる人をどう愛すべきかみえてくる気がします。主の声を聞き分け従うことができますように。欧州の皆さまとの再会を楽しみにしています。愛を込めて日本から。



ウルスはBSF(BibleStudyFellowship)のリーダーとして奉仕することになりました。仕事も忙しくなかなか大変そうですが頑張っています。美智子は所属教会(10月に久留米キリスト教会に転会しました)でJippiiのゴズペルクワイアを立ち上げ子どもたちと楽しく活動しています。恵は3歳になり、4月から幼稚園に通います。真は1歳5ヶ月になって恵の真似ばかりしています。

キリストの信仰に立つ

滋賀県は信楽・陶芸の里の
ウイリアムズゆき・スティーンご夫妻



私たちは、スコットランドのエジンバラから信楽キリスト教会に移って6年

目に入りました。主の恵みを味わいながら今にきています。

第3回帰国者リトリート滋賀が、3月18から20日まで「キリストの信仰によって立つ」をテーマに信楽キリスト教会を主会場に開催されます。ヨーロッパではお馴染みの、内村伸之師 / 齋藤篤師 / 田辺正隆師といった錚々とした講師をお迎えします。充実した講演に加えヨーロッパから4名、アメリカから2名が賛美演奏します。



スモールグループも設けられるほか、19日の午後は陶芸を楽しみ、陶芸の里信楽の有名窯元散策、山本園でお茶体験など、

アトラクションも豊富！そして、今年は、「Think of the happy married life、幸せな結婚生活を考える」のセッションで、真剣に結婚を考える時間を持ちます。米国人宣教師Sarahさんの演奏と証しも見逃せません！今年が信楽キリスト教会を会場として行うのは最後です。是非、信仰が新たにされ、又献身者が起こされるようお祈りください。

<http://www.kikokushashiga.org/ja/>



良き思い出を胸にして
東京都世田谷区は深沢教会の
齋藤 篤・朗子ご夫妻



ドイツ・ケルンの地を離れて日本に帰り、はや2年が経とうとしています。

大都市といえどもゆっくりと時間の流れていたケルンから、文字通りの「眠らない都市」である東京に新しい任地が与えられて、約10年ぶりの東京生活にあたふたしながら毎日過ごしています。

私たちが招かれた深沢教会は、60年前に青空日曜学校から誕生しました。以後、地域に根差した地道でかつ熱心な伝道が行われて今日にいたっています。私と妻は4代目の牧師としてこの教会へ迎えられました。

礼拝は1日3回！プレイズ・ワーシップソングから始まって、賛美も祈りも、教会メンバーの交わりもとても盛んな教会です。たびたび聞かれるのは「日本キリスト教団の教会で無いみたいですね！」という感想の言葉。そ



青年たちのバイブルキャンプ

れがどのような評価であるかは別として、この教会が長年掲げてきた超教派的な中であってキリストの福音に立つ態度は、欧州の日本語教会のネットワークと重なります。そんな中に包まれながら、とても楽しい毎日過ごしています。

一方で日本に戻ってきて以来、帰国数か月後に遭った2回の交通事故、それに伴う怪我、昨年は体調不良で検査した結果病

気が見つかって、治療の生活をする事になりました。しかし、そのような中でも、いや、そのような中だからこそ神様の助けと恵みを十二分に実感しているのも確かです。欧州で戴いた良き思い出と交わりを胸にして、これからも歩んでまいりたいと思います。また、何かの機会でご一緒とお目にかかれましてを楽しみにしております！

深沢教会のHP：www.fukasawa-c.com



キリストの弟子として

オーストラリアはアデレードの
菊地祥彦・恵美ご夫妻



2016年のクリスマス、また、新年はオーストラリアのアデレードで

迎えました。私は日本とドイツでしかクリスマスを迎えたことがなかったので、真夏のとても暑い中でのクリスマスというのが何とも不思議でした。

私と妻は去年5月に日本を離れ、オーストラリアに移住しました。この経緯についてご存知ない方もいらっしゃると思いますのでこの場で簡単にシェアさせていただきます。

去年初めまで、神学校での学び、また、母教会での様々なミニストリーを続けていました。しかしその後2月に燃え尽き症候群のような症状に陥り、今までのような生活を送ることができなくなりました。回復のため、また、経済的な理由もあって、妻の恵美が震災前まで暮ら

していたオーストラリアに引っ越すことにしました。

オーストラリアに来てからは、来て1ヶ月後くらいから仕事を始め、去年の9月頃からは月曜から金曜まで元気に働くことができています。主の恵みに感謝いたします。また、1月26日に元気な男の赤ちゃん、眞理(しんり)が授けられ、目下二人で育児に奮闘中です。

”燃え尽き症候群”に陥ったとき、私は“靈的絶望”に陥っていました。それまで信頼していた神様に希望を



アデレード郊外に広がる葡萄畑

置くことができなくなり、もはやどこにも希望を持つことはできず「何をしても無駄だ」と無気力状態にも陥りました。しかし、周りの人たちのサポートもあって、徐々にそれまで学んできた”主にある希望”を取り戻すことができるようになり、自然と精神的肉体的状態も回復していきました。その後も、靈的に失望してしまうことがありますが、その度に聖書のことばを自分の心に言い聞かせています。

「わがたましいよ。なぜ、おまえはうなだれているのか。私の前で思い乱れているのか。神を待ち望め。私はなおも神をほめたたえる。御顔の救いを。」詩篇42:5

スイスJEGのみなさまには、神学校での学びを断念したのにも拘らず、支援献金をお捧げくださり感謝しています。異国で暮らし始めたばかりの私は、皆様からの愛の献金に、どれほど励まされ勇気づけられたか計り知れません。本当に有難うございました。

これからもキリストの弟子として、みことばを学び、みことばで考え、みことばを行っていきたくです。みなさんの上に主の豊かな祝福がありますように。



恵美の職場から眺めるのアデレード市内

ヨーロッパの日本語教会から

新しい年を迎えて

喜び溢れた洗礼式

パリ・プロテスタント日本語キリスト教会
富永重厚兄から

パリ教会の2017年は盛永進牧師による
マイの福音書11章25-30節からの力強
いメッセージから始まりました。

8日の礼拝の中で、在仏45年86才
の半田薫次郎兄の洗礼式が、盛永先生に
より執り行われ、皆で喜びと感動を分か
ち合いました。

今年こそパリ教会に長期牧師が与えら
れ、2万人以上と言われるフランス在住
の同胞の救いの働きが前進して行きます
ように、皆様のお祈りに覚えて頂きたく
どうぞ宜しくお願い申し上げます。

本年も皆様の上に主の豊かな祝福があ
りますように。



主の愛に応える教会に

ケルン・ボン日本語キリスト教会は
佐々木良子牧師から

2017年がスタートし、エピファニー後
クリスマスツリーなどが片付けられ、つ
くづく時の流れを感じるこの頃ですが、
皆さまにおいては如何お過ごしでしょ
うか。どうぞ今年も宜しくお願いいたし
ます。

昨秋から私たちの小さな群れに転勤族
の方がお見えになり、1月1日には正式に
教会員として共に歩まれることとなり、
喜びの新年礼拝となりました。今秋は永
年教会を支えてくださったご夫妻が日本
へ完全帰国されるので寂しさを覚えてい
ましたが、主は憐みをもって新たな希望
を与えてくださり、教会を支えてくだ

さっていることに感謝しています。

このような主の大いなる愛に応える教
会として、更に教会員一丸となって歩ん
で参りたいと願っています。今年目標
は、クリスマスから再開した子どもの礼
拝の充実と、日独語礼拝の回数を増やし
て、教会の門戸を大きく開いていくこと
です。今年も主のお働きに期待して、共
に欧州の地において福音を宣べ伝えてい
けたら幸いです。



新しい御業に期待して

シュトゥットガルト日本語キリスト教会は
浅野康牧師から

2015年9月に、浅野が三輪師の後任
牧師として赴任して一年後となる昨年9
月に、浅野の牧師就任式がマイヤー先
生の司式の下で行われました。昨年11月
には、フランクフルト日本語教会の矢吹博
先生を迎えて、教会修養会が開催され、
25名ほどの参加者が「救い」をテーマ
じっくりと御言葉から学ぶことができました。

また、昨年12月のクリスマス祝会に
は、およそ60名の参加者が与えられ、盛
況でした。この時は、日独のバイリンガ
ルで行われたこともあり、全体の4割ほ
どは、ドイツ人の方々でした。また、嬉
しいことに、クリスマス礼拝には、佐々
木千鶴さんが洗礼を受けられ、初めて教
会に来られたご家族と共に、喜びに満ち
たクリスマスを祝われました。

今年の年間聖句は、エゼキエル書36章
26節前半です。「わたしはあなたがたに
新しい心を与え、あなたがたのうちに新
しい霊を授ける。」この一年、主が私た

ちのうちに新しい御業をなして下さるこ
とを期待して、主にますます深く信頼し
たいと願わされています。



新しい事が起きます

ロンドンJCFは
馬場信裕兄から

『先の事どもを思い出すな。昔の事ども
を考えるな。見よ。わたしは新しい事を
する。今、もうそれが起ころうとしてい
る。(イザヤ書43章18-19a)』

主の恵みと祝福のうちに2017年がス
タートしました。欧州各教会、集会の皆
様におかれましても喜びと輝きに満ちた
クリスマスをお過ごしになり、希望に満
ちた新年をお迎えのことと思います。
冒頭のみ言葉は17年度ロンドンJCFの
年度聖句です。

ロンドンJCFにとって2017年は、
長い無牧の期間にピリオドが打たれ、新
しい牧師が着任し、新しい態勢で教会の
牧会と宣教が始まる年です。新しい事が
今、もう起ころうとしています。どうぞ
服部先生ご夫妻のピザを始めとする全て
の渡英準備が、現教会での引き継ぎが御
心のうちにスムーズになされますように
お祈りください。着任予定は3月23日
です。そして欧州の皆様には夏のヨーロ
ッパの集いにおいて先生ご夫妻をご紹介
できる事を楽しみにしております。





今回、主の豊かな導きによって実現したFATユースリトリートについてお話しします

【FATとは何か？】

クリスチャンの基本姿勢として求められる、flexible、available、teachableの略で、約2年前のヨーロッパキリスト者の集いのユースグループから誕生して、スカイプを通して聖書の学びや分かち合いをするグループです。

【今回の経緯と収穫】

初めはFATのメンバーの中でも、特にモチベーションを持って、頻繁に参加してくれていた数人のメンバーによって、お泊まり会をしようというアイデアがきっかけでした。基本的に、年一、二回しか主にある同世代の信仰者との交わりが持てない中、翌年は、特にSLIMカンファレンスがないうということもあって、この企画が立ち上がりました。

最終的に25名前後までに膨れ上がった参加者を収容できる場所をみんなで祈り、結果的にチューリッヒ市内の教会が施設を無料提供して下さいました。お泊まり会に欠かせない寝袋や食品、必要経費もクッキーを売ったり献金や献品によって満たされ、スイスのメンバー同祈りは聞かれたのです。主は応えられる、必要は満たされるという体験を、身を以て味わうことができました。その結果、物価の高いスイスでの修養会が参加費無料で実現し、経済的な余裕の少ないユースでしたが、各自交通費のみの負担で満たされた楽しい時間を与えられました。主に感謝です。

今回は1回目のリトリートということで、良くも悪くもプログラムを大まかにしか決めていませんでした(というか後手後手になり、余裕がなかったのも事実です)。朝は朝食の後、1日目は普段のFATの開催日だったので、マルコの福音書からまず神を愛し、隣人を愛せという重要な箇所を読み深めました。2日目はその適応をスモールグループに分かれて分かち合いとても恵まれました。

食事は、今村葉子姉とヴァイランド千佳姉が準備を手伝って下さいました。みんなで協力して料理、後片付けをしました。餃子をみんなで包んだり、ソース嫌いの子がいて塩焼きそばを急遽追加で作ったり(笑)、スイス名物ラクレットにもみんな大満足でした。



第 1 回 F A T
ユースリトリート
を 終 え て
津 田 和 明
スイス日本語福音キリスト教会

今回の良かった点は、プログラムを詰め込み過ぎなかった点です。参加者同士の豊かな交わりの時間が十分に持てたことです。夜は夕食後決められていないのに、毎晩自然にワーシップソングの賛美が始まりました。日本語の話せない参加者もいましたが、英語での賛美も大いに盛り上がり、みんなのレパートリーや対応力に舌を巻きました。

夜はみんなでゲームをして盛り上がり親交を深めました。唯一、オーストラリアから参加していたノンクリスチャンの十代の姉妹が日本語喋れないのに大丈夫かなと思っていましたが、同時通訳の出来る兄弟の奉仕もあって、洗礼に導かれるという、神様からのサプライズプレゼントがありました。

最終日の夜は、FATメンバーで行き詰まりつつあったFATの方向性について、深夜まで話し合い祈りました。主の導きによって、8日からFATが再開されます。同世代のクリスチャン同士の分かち合いに焦点を合わせ、聖書の学び半分、分かち合い半分という形に導かれました。感謝です。



FAT、FATリトリートの
存在意義

(1) 学びについて

参加者の殆どは2ヶ国語以上を話し、日本と現地のアイデンティティを持ち合わせています。ネイティブの日本人ですら難解だと感じられることの多い日本語での聖書の学びや、礼拝メッセージでの言葉が彼らに届く言葉で伝えられていないことがあります。また、どうやって聖書を読んだらいいのか、聖書の教えの適応の仕方など、彼らが必要としている課題に、彼らの目線で彼らに届く言葉で寄り添っていく必要があります。パイリンガル以上のメリットとして、多様な言語の聖書の訳文の比較ができる恵みがあります。

(2) 分かち合いの重要性

フルタイムのクリスチャンとして生きていく場合、それぞれの生活の場において、マイノリティになってしまうのは若者達も同じです。

特に、若い世代にとっては、これは死活問題なんです。自分とは全く違う価値観や、世界観で生きているクラスメイトの中で、浮いた存在にならず、クリスチャンとして信仰を保っていく彼らの気持ちに、大人達は先輩クリスチャンとして豊かな想像力を持って寄り添う必要があります。

彼らにとって、近い境遇にある同じ倫理観、世界観、価値観で生きる同世代のクリスチャンとの分かち合いや交わり、励まし合いや祈り合うありがたさや必要性、恵みは同じクリスチャンであれば理解に固くありません。